

ジェンダー・ギャップ指数 2022

～ 世界の中の日本の男女平等指数 ～



7/13 に世界経済フォーラムが最新のジェンダー・ギャップ指数を発表しました。
このジェンダー・ギャップ指数は、男女不平等指数とも呼ばれ、男女間でどのくらいの格差が生じているかを数値化、ランキングにしたものです。今月はこのジェンダー・ギャップ指数を取り上げます。

対象国 146 か国

★ 「経済」「教育」「政治」「健康」の4つの分野で評価

★ 0に近いほど不平等、1に近いほど平等

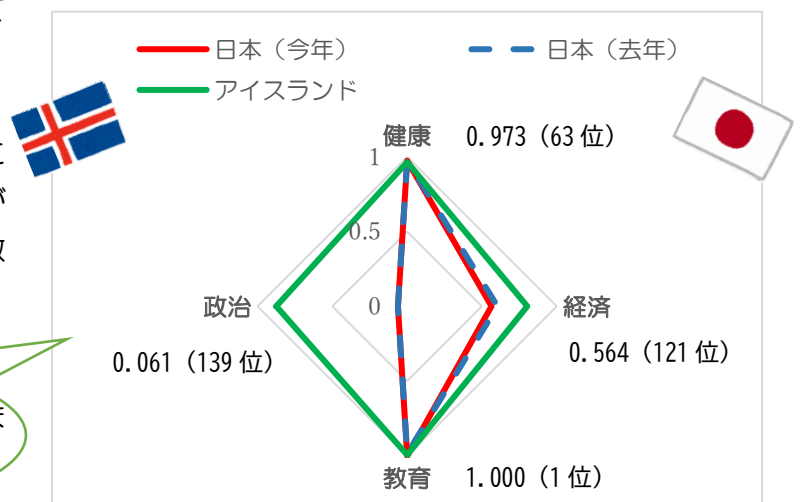
日本の順位は、昨年の120位から4つ上がって**116位**でした。順位は上がっていますが、昨年は参加国が156か国だったのが、今回146か国と10か国減っており、実質的にはランクダウンとも言える状況です。この順位は相変わらず、主要先進7か国（G7）で最下位となっています。

アイスランドは13年連続で首位を守っていて、参加國中、唯一0.9ポイント台を付けました。1～5位には北欧が多くランクインしており、順位も昨年と同じ結果となりました。

アジアで最も順位が高かったのは昨年度に続いてフィリピンで19位。アメリカは躍進が続いており、53位→30位→27位と年々数字を上げています。

アイスランドはきれいなひし形になっていますが、日本は経済と政治が偏っています。

順位	前回順位	国名	指数
1	1 (-)	アイスランド	0.908
2	2 (-)	フィンランド	0.860
3	3 (-)	ノルウェー	0.845
4	4 (-)	ニュージーランド	0.841
5	5 (-)	スウェーデン	0.822
(中略)			
19	17 (-1)	フィリピン	0.783
(中略)			
27	30 (+3)	アメリカ	0.769
(中略)			
102	107 (+5)	中国	0.682
(中略)			
116	120 (+4)	日本	0.650





今月知っておきたい言葉

フェミニズム

女性解放思想、及びその思想に基づく社会運動の総称のこと。

①男性に主導されない女性の自立的な運動であること、②女性の性別役割からの解放を求めていること、この2点が条件とされる。

19世紀末から20世紀初めに起こった女性参政権を求める運動が始まりと言われ、現在、フェミニズムの歴史においては、第1～4波という波があるとされている。

ジェンダー平等の扉を開いた偉人紹介

Vol.1

ジェンダー平等に尽力した日本の偉人をご紹介します

いちかわ ふさえ
市川 房枝 (1893～1981)

婦人活動家、政治家。

「婦選は鍵なり（女性の参政権が平等で平和な社会を築く手がかり）」という信念のもと、婦人参政権（男女普通選挙）導入に尽力。自身も通算25年にわたり国会議員として活躍。

世界的に有名な緒方貞子さんを国連の場に送り出した立役者としても知られています。



新着図書のご紹介



パレア松本には図書コーナーがあります。どなたでも自由に本を読んだり、借りたりすることができます。



『フェミニズムがひらいた道』（上野千鶴子著、NHK出版、2022年）

フェミニズムって言葉は聞いたことがあっても、その歴史を理解している人は少ないかもしれません。この本を読めば、フェミニズムの歴史をわかりやすく丁寧にたどりながら、現在に通じる出来事を理解することができます。女性学の第一人者による、1時間で読める本です。

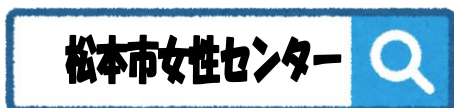
『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』（新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム著、小学館、2022年）

普段何気なく使ったり、よく見る表現に、実は性差を助長する思い込みの偏見が隠れていることがあります。メディア業界向けに作られた本ですが、業界の方ももちろん、そうでない方も是非、押さえておいてほしい一冊です。



この通信は、松本市公式ホームページでも見ることができます。

Facebook もやっています！



＜編集・発行＞

松本市 人権共生課（松本市女性センター）

〒390-0811

松本市中央 1-18-1 Mウイング3階

TEL 0263-39-1105 /FAX 0263-37-1153